

第19回全国市議会議員会研究フォーラム in 盛岡

◆開催日：

知立市議会議員 山崎 りょうじ

2024年10月9日（水）～2024年10月10日（木）

◆場所：トーサイクラシックホール岩手

【第1日目】

大会テーマ

「主権者教育の新たな展開」

■13:00 開会式

■13:20 基調講演

第99代 内閣総理大臣 菅義偉

ビデオメッセージにてご挨拶

■14:40 パネルディスカッション

「地方議会の課題と主権者教育」

●コーディネーター 井柳美希

●パネリスト：

・土山希美枝 法政大学法学部教授



・越智大貴 一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事

・渡辺嘉久 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

・遠藤政幸 盛岡市議会議長

【所感】

地方議会の主権者教育は、これからの社会を担う子どもたちに、民主主義の根幹である地方自治の重要性を深く理解させ、自ら考え、行動する主体的な市民を育成する上で、非常に重要な取り組みであるという話が多かった。一方で、パネラーの土山教授は改めて、議会は行政を監視し、住民の代表として政策決定を行う機関であり、教育機関ではないため、中立性を保ち、特定の思想や価値観を押しつけるべきではないと発言していた。この考えは、決して議会が主権者教育に関与すべきでない。と否定しているわけではなく、むしろ議会の役割を明確にし、その範囲内でどのように主権者教育に貢献できるのかを深く考えるべきと言っていると思う。知立市議会が主権者教育のサポートとしてできることは、まさに自分が議長として提案している『議会としての小中学生の社会見学の受け入れや職場見学の受け入れ』など、実際の議会の様子を見学したり、議員と意見交換したりすることで、議会の仕組みや議事進行を体験的に学ぶことだと改めて思った。

【第2日目】

■9:00 課題討議

主権者教育の取り組み 地方議会と主権者教育

■コーディネーター 東北大学准教授 河村和徳

現在の主権者教育が抱える限界について

現在の主権者教育は、18歳選挙権の導入を機に大きく注目を集め、学校や地域社会で様々な取り組みが行われている。しかし、その一方で、いくつかの限界も指摘されている。

◆実践的な経験不足

・模擬選挙や討論会にとどまる: 実際の政治活動やボランティア活動など、実践的な経験を通して学ぶ機会が不足している。

・地域社会との連携不足: 学校内での学習にとどまり、地域社会との連携が十分でないため、実社会での問題解決能力を養うことが難しいという課題がある。

■パネリスト

●伊那市議会 白鳥敏明 高校生議会の報告

伊那市議会では、若者に政治や地域への関心を持ってもらおうと、2019年から議場や学校で高校生との交流を行って。高校生との意見交換会はその一環で行われ、生徒たちはほかに定例会一般質問も傍聴し、議場で高校生が学校紹介をしたあと、5つのグループに分かれ、議員のイメージについてや、地域課題などを話し合った。

●四日市市議会 諸岡覚

ワイ！ワイ！GIKAIの報告→議会報告会などの対象を高校生・大学生とした

若い世代との意見交換を目的に、三重県四日市市の各中学校で、市議会議員と生徒の「ワイ！ワイ！GIKAI」が開かれた。生徒が事前に考えた「公共施設」「中学生の勉強スペース」「商店街」など九つのテーマでグループ討議をした。司会、進行も生徒が務め、日ごろ、討論をまとめる仕事を

している市議たちも、その手際に感心したとのこと

●山鹿市議会 服部香代

シチズンシップ教室などの報告

【所感】

地方議会は、地域社会の最前線で活動しており、主権者教育において重要な役割を担っている。近年、18歳選挙権の導入などを背景に、地方議会でも主権者教育への取り組みをより活発化していくべきと感じた。子どもたちに社会見学・職場見学の一環で、議会の様子を見学したり、議員との意見交換会など実際に議員と直接、意見交換をする機会を提供していきたいと改めて決意した。

■11:00 閉会式

